

商店街に郷土料理店を開店させ、観光客の取り込みを図る

## 株式会社まちづくりやべ

機関名	株式会社まちづくりやべ		
所在地	熊本県上益城郡矢部町大字浜町78-1		
電話番号	0967-73-1855		
地域概要	(1)管内人口 12千人	(2)管内商店街数 5商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 5商店街	(2)会員数 234商店	
	(3)空店舗率 8.5%	(4)大型店空き店舗数 1店舗	
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成15年度	活性化対策事業	・郷土料理復元事業 ・地元物産の展示販売
	総事業費	6,040千円

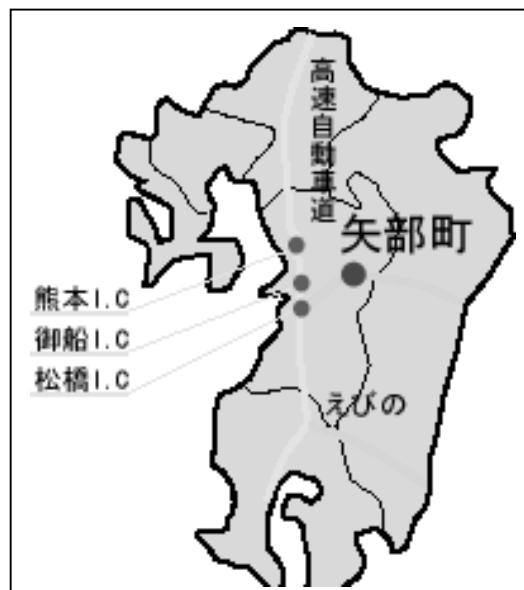
### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

熊本県上益城郡矢部町は5つの商店街から成っており、商店街に近接して歴史的遺産であり、かつ、地元農業のライフラインともいべき「通潤橋」が位置している。また商業者と農業者を結びつけ、240年以上の伝統を誇る「八朔祭」も市街地中心部をメイン会場に開かれる等、古い歴史を持った町である。しかしながら、多くの自治体がそうであるように、商店街の疲弊は矢部町においても例外ではない。人口減少、バイパス沿いへの大型店出店、モータリゼーションによる都市部への商圈拡大は商店街の疲弊を深刻なものとし、近年空き店舗の増加が目立つ傾向にある。

以上を踏まえ、平成13年8月にTMO機関である「株式会社まちづくりやべ」を設立させた。平成14年3月に作成した「TMO事業計画書」に基づき、商店街店舗数の増加、中心市街地購買率のアップ、観光客数の増加及び商店街への誘引を目標とし、まちづくり商人塾、食開発等の事業を推進してきた。この事業の中で、行政、TMO、商業者が一体となり、「矢部町の宝さがし」を題材に勉強を重ね、矢部町における食の名人、食文化の豊かさをアピールポイントとして、平成15年度の空き店舗対策事業にこぎつけた。

具体的には、商店街に近く、かつ、観光名所である「通潤橋」近隣には食堂が少なく、



矢部町の位置図（矢部町HP）

中心商店街の空き店舗に郷土料理の店を導入して、通潤橋等を訪れる観光客を中心商店街に呼び込むことで、商店街の賑わいを取り戻すことを目的とし、空き店舗対策事業の第一号として「郷土料理提供事業」に取り組むこととなった。

## 2. 事業内容

### (1) 事業の位置づけ

#### ①開発事業として

中心市街地の中の空き店舗を利用することで空き店舗の減少を図るとともに、年々増加する空き店舗対策のモデルケースとする。

#### ②学習・教育の場として

若い世代等を対象に、郷土料理の継承を主目的とする食の体験道場（実践・体験の場）として定期的な講習会を月4回程度開催し、ふれあいの場、食文化の学習の場を提供する。

#### ③情報発信基地として

来店者に対し、地元物産の紹介、矢部町の観光紹介等地域の食・文化情報を発信し、矢部町の魅力を知ってもらうことで、中心市街地への観光客の誘客を図る。

### (2) 郷土料理の店「よこまち」概要

- ・店舗名 「よこまち」
- ・場所 熊本県上益城郡矢部町浜町 172-3 よこまち通り
- ・旧店舗 鮮魚店
- ・店舗面積 木造2階建て（1階 113.71 m<sup>2</sup> : 2階 43.71 m<sup>2</sup>）
- ・改装部位 1階内装のみ。\*2階部分は使用しない。
- ・開店日 平成15年10月28日
- ・営業時間 午前11時～午後3時
- ・店休日 毎週月曜日



「よこまち」外観（右）（矢部町HPより）

「よこまち」のメニュー

長寿ご膳（ご飯、だご汁、煮しめ、小鉢数品、地鶏の茹で刺）	700 円
お袋ご膳（ご飯、だご汁、煮しめ、日替わり魚料理）	700 円
よこまち定食（ご飯、だご汁、煮しめ、小鉢数品）	500 円
だご汁定食（ご飯、だご汁（大）、小鉢数品）	500 円
巻き寿司一本	360 円
巻き寿司体験（要予約 2本）	1,000 円

(3) 事業内容

①店舗改装

店舗改装は設計提案方法（コンペ形式）により決定した。

②店舗の運営・管理体制

地元商店街の主婦や食生活改善グループのメンバーで組織する任意の団体「虹の会」が運営母体となって店舗管理及び経営管理を行い、「株式会社まちづくりやべ」がサポートする体制とした。

③採算性の検討

運営母体である「虹の会」の要望により営利目的ではなく、ボランティアによる運営とする。そのため、事業採算性として運営による利益の追求は行わないものとし、運営上の経費（材料費・光熱費等）のみを検討し、予測される来店客数から商品価格等の算定を行うに留めた。

## 【 効 果 】

### ・来街者の行動

マスメディアを活用した広報・周知活動の成果があり、町外からの来街者が増加した。主に、通潤橋などの観光者や仕事関係で矢部町を訪れた人の来街が目立った。

## 【 課 題 ・ 反 省 点 】

### 1. 事業の合意形成

TMO事業としても初めての空き店舗対策事業であり、周辺の環境整備の不備や周辺施設との連携が不足する中での出店であり、中心市街地の交通量に影響を与えるまでの効果には至らなかったと考えられる。

今後の課題として、先ず必要なのは「周囲との連携」があげられる。具体策として通潤橋における、「よこまち」の紹介、宣伝の実施がある。これは、交通量調査を見ても通潤橋への観光客は増加しており、町にとっても大きな観光施設である通潤橋観光客をいかに取り込むかが成否に関わることは間違いない。次に、第2次空き店舗対策事業で計画される施設との連携があげられる。以降の事業の推進においては、各施設間の連携を十分考慮して検討する必要がある。

地元商店街との関わりでは、商店街が疲弊しきっている中でのオープンということで、同業の飲食業組合からは相当な反発があった。まずは、飲食業の方々に事業の提案を行うべきであった。

### 2. PR

よこまちの営業実績を見ると、平成15年11月オープン当初の1日31人から比べて、平成16年3月には1日の来店客数21人と減少している。また、売上も減少傾向が続き、厳しい状況にあり飲食店としては厳しい状況にある。原因としては、店舗に関する情報は各種メディアを通して十分周知されていたが、季節的に一般観光客が少ないシーズンオフのオープンであったことが要因として考えられる。また、営業時間の短縮も売上減少の要因の一つである。

#### 「よこまちの営業実績」

期間	売上(円)	営業日数 (日)	営業時間 (時間)	1日平均来店客 数(人)
平成15年10月	86,905	3	6	48
11月	474,921	25	6	31
12月	323,702	20	4	27
平成16年 1月	249,304	20	4	21
2月	286,700	23	4	21
3月	261,769	21	4	21

**【事業の実施ポイント】**

商店街活性化のための空き店舗対策とはいえ、民間の飲食店の誘致及び運営を支援するということに対して、事前に、周囲の事業者へ詳細な説明を行う責任があり、合意形成を図る必要があると思われる。

**【関連URL】**

矢部町役場 <http://www.town.yabe.kumamoto.jp/>